

聴講者募集

— 屋根・眺望景観を [知る・学ぶ] 環境色彩 —

日頃、屋根を意識して視ることはありますか？
気候風土豊かな日本では、屋根の色・素材・形態が地域特性を表していることなど、その特性をご存知でしょうか？また、歩行者や車窓、高層建物から捉えた環境色彩は、国内外の人々にどのように映っているのでしょうか。

今年度、環境色彩研究会では「屋根・眺望景観」をテーマに[知る・学ぶ]場を設け、来年3月は[考える]場として、シンポジウムを開催いたします。

今回は[知る・学ぶ]場として、研究発表・講演会のご案内です。
第1部では、沖縄や北陸の特性ある屋根色の研究発表や、都心における眺望影響や現状の屋根色についての研究発表が行われます。第2部では、数々の景観計画を策定されている横田様と、国立研究機関に在籍されていた日原様からの講演です。専門性の異なるお二方からのお話の後は、聴講者も参加のディスカッションを行います。

この機会に皆様お誘い合わせのうえ、ご参加ください。
会員でない方のご参加も歓迎いたします。

環境色彩研究会主査 高山美幸

◆開催日：11月24日（土）10:00～15:30

◆内容：I部 10:00～11:50 研究発表会

・口頭発表 6件

II部 13:00～15:30 招待講演・ディスカッション

・横田宜明 氏（株式会社エイト日本技術開発）

「屋根と眺望景観からみる地域特性と景観形成の取り組み」

・日原もとこ 氏（風土色彩文化研究所 主宰 / 東北芸術工科大学 名誉教授）

「"日本"が足りない日本の景観

～景観づくりに国際的スタンダードはあり得ない～」

◆会場：東京家政学院大学 千代田三番町キャンパス1号館【1301教室】

〒102-8341 東京都千代田区三番町22

<http://www.kasei-gakuin.ac.jp/site/access.html>

参加申し込み先

日本色彩学会平成30年度研究会大会

<http://www.color-science.jp/kentai2018/index.html#sankatouroku>

I 部 研究発表会

テーマ研究「屋根・俯瞰景観」 10:00～11:50

- 10:00 開催挨拶
司会:加藤美子 / 開会挨拶:主査 高山美幸 / 座長 高松智子・加藤美子
- 10:10 1.「景観の色彩における地域性 ～屋根の色の事例より～」
(株)日本カラーデザイン研究所 杉山朗子
- 10:25 2.「沖縄における赤瓦と景観形成 ～景観計画の視点から考える～」
(有)センスアップ・プランニング 成田イクコ
- 10:40 3.「福井県内における景観色彩の一考察 ～越前瓦による屋根景観の現状について～」
啓新高等学校 加藤美子
- 10:55 4.「地理的背景から生まれた瓦屋根景観まちづくり ～出雲崎～」
ユニバーサルカラーインスティテュートインターナショナル 高松智子
- 11:10 5.「東京都心における屋上床面の色彩選択状況 ～現役設計者アンケート調査報告～」
エスケー化研(株) 高山美幸
- 11:25 6.「景観条例用マンセル値に見る屋根材の色彩」
サンスター技研(株) 萩原京子
- 11:40 全体概説
閉会挨拶:副主査 萩原京子
- 11:50 終了

II 部 招待講演

「屋根・俯瞰景観を考える」 13:00～15:30

II 部では、招待講演後に横田氏と日原氏への質疑応答。引き続き会場の参加者とのディスカッションを行います。屋根及び眺望景観の各地の状況、課題、今後について意見交換の機会とし、来年に予定する屋根・眺望景観のシンポジウム及び研究へと発展させたいと考えております。多くの方のご参加をお待ちしております。

- 13:00 開会挨拶 司会:杉山朗子 / 開会挨拶:主査 高山美幸
- 13:05 横田宜明氏
「屋根と眺望景観からみる地域特性と景観形成の取り組み」
- 13:55 日原もとこ氏
「“日本”が足りない日本の景観 ～景観づくりに国際的スタンダードはあり得ない～」
- 14:35 休憩
- 14:45 パネラー&会場 ディスカッション
パネラー:横田宜明氏・日原もとこ氏 司会:高山美幸
- 15:25 閉会挨拶:成田イクコ
- 15:30 終了

講演内容 ・ 講師紹介

講師 : 横田 宜明(よこた よしあき)氏 株式会社エイト日本技術開発

演題 : 「屋根と眺望景観からみる地域特性と景観形成の取り組み」

内容 : 2004年景観法以降、行政による景観計画の策定が進み、2008年歴まち法による地方都市の歴史性を活かした景観形成、インバウンド等の観光振興を図るまちなみ整備が進んでいます。一方、各地でまちづくり協議会が設立され、住民による景観形成の取り組みも進んでいます。赤瓦屋根の連なるまちなみや地域の色・素材を活かした景観形成、瀬戸内海や琵琶湖等広域の眺望を保全する景観形成の取り組みについてご紹介します。

経歴 : 1954年東京都渋谷区生まれ、1979年東京都立大学卒業。
以後40年間、土木コンサルタントにて都市計画の調査計画設計に携わる。
2004年岡山勤務以降、岡山県景観計画、瀬戸内海景観ガイドライン、琵琶湖広域景観形成検討、島根県江津市、広島県福山市、岡山県高梁市等地域特性を活かした景観計画・景観条例の策定。東祖谷村落合重要伝統的建造物群保存地区防災計画、牧野富太郎生家復元基本設計(高知県佐川町)等に携わる。2015年から東京勤務。都市環境デザイン会議、倉敷町家トラスト、川越蔵の会、京町家友の会の活動に参加。

講師 : 日原もとこ(ひはら もとこ)氏 風土・色彩文化研究所 主宰

演題 : 「"日本"が足りない日本の景観
～景観づくりに国際的スタンダードはあり得ない～」

内容 : 豪州国留学体験から目覚めた日本の伝統的美意識への気付きに始まり、本年、傘寿を迎え、終活としての胎内回帰へ向かう美しい日本への願望を語らせていただきたく思っております。留学から帰国した際に荒廃した街並みの風景に大変ショックを受けました。我が国が刻んだ歴史文化を忘れ、捨て去った形骸が延々と続きました。先人が築き上げた固有文化が微塵も残っていなかったのです。国立研究機関に31年間勤務した人間として、私は何をなすべきか・・・
未だに正解は有りませんが、はっきりしている事は、
日本固有の積み重ねた美意識に胸を張って主張すべきだということです。

経歴 : 広島出身、高校2年より東京へ移住。
元、通産省工業技術院製品科学研究所 (現在、産総研に改称)主任研究官を経て平成4年より東北芸術工科大学教授に就任。
平成17年定年退職同大名誉教授。
現在、風土・色彩文化研究所の看板を掲げ、地域色と東アジアー日本のルーツに関心をもつ。
アジア文化造形学会初代会長を4年間務める(2016,3月~2018,9月)
現在も山形東京間の二重生活を継続。
日本デザイン学会名誉会員、日本インテリア学会名誉会員
日本色彩学会環境色彩研究会顧問 伝承文化支援研究副センター長として、東北の様々な伝承文化の支援活動中。